

2020（令和2年）年度 通常総会 議案書

2020年 7月 18日（土）

電磁的会議システム（zoom）を用いての総会開催

特定非営利活動法人 日本環境管理監査人協会

2019(令和元年)年度 事業報告書(第1号議案)

法人の名称 特定非営利活動法人 日本環境管理監査人協会

1. 事業活動概要

研究会活動については監査実務研究会とEPE研究会が、研究活動で成果を挙げた。
セミナーや講演会活動では、2019年度総会併設講演会及び定例の春・秋のセミナーを行った。
この他、12月に開催のエコプロ展ではNPOブースに出展し、活動のPRを行った。
しかし、2020年春からの新型コロナウイルス蔓延により、3月以降の研究会活動をWEBを用いての会合導入にすると共に、5月に予定していたセミナーの開催については次年度に延期することとした。

2. 事業報告

[1] 環境マネジメントに関する調査研究事業（定款第5条第1号に係わる事業、以下関連号のみ記す）

（1）環境監査実務研究事業

- 1) 内容 監査実務研究会（略称：実務研）・EMS支援方法及びコンサルティング技法の研究会
「監査実務研究会」の2019年度活動は、2015年に改訂された「ISO14001」の規格の要求事項について、特に規格の意図、規格のねらいをISO9001等の他規格と比較し、要求事項の具現化に際しては経営に貢献するEMSとは何かを検討すると共に、関連する他のMSとの統合や連携、審査員の立場から審査での留意すべきことを明確にして、より良いEMS構築に資する事を追求した。特に2019年度はSDGsでの17項目から関連する事項を抽出して、今後の企業活動に求められるものを重点課題として研究を進めた。

- 2) 日時 定例研究会はほぼ毎月1回
3) 場所 調査研究活動は主として東京中野「AUDIX Registrars 会議室」で行った。
4) 従事者 研究会会員 20名； 研究会参加者延べ90名
5) 受益者 環境マネジメントに携わる多数の人々
6) 支出額 収支計算書参照

（2）環境パフォーマンス評価研究事業

- 1) 内容 : 環境パフォーマンス研究会（略称：EPE研）
研究会は当初の環境パフォーマンス評価研究の原点へ戻り、2015年規格改訂を踏まえ、各種具体的評価手法に関する資料入手のもと、経営効率及びCSR、ESGさらにはSDGsの視点を加えての有用な環境パフォーマンス評価の方法及び評価指標の研究に加えて定量的な評価と情報発信のあり方について研究を行った。

- 2) 日時 定例研究会は、原則 毎月1回
3) 場所 主としてKAZ コンサルティングの会議室を利用して実施した。
4) 従事者 研究会会員 10名； 研究会参加者延べ80名
5) 受益者 エネルギー管理、環境パフォーマンス評価や関連する研究に関心を持つ多くの人々
6) 支出額 収支計算書参照

（3）その他の研究事業

SDGsに伴い、省エネやサーキュラーエコノミーやLCAに着目して、新しい研究会スタート準備中である。

[2] 環境マネジメントに関する情報提供事業（第2号に係わる事業）

(1) 電子媒体による双方向情報発信事業

メーリングリストの活用によるタイムリーな情報発信（新聞情報、JEMASニュース等）と研究事業ごとの登録情報（メーリングリスト）による情報の共有と意見交換を進めた。

- 1) 内容 ・メーリングリストとホームページによる、主要新聞に掲載の環境マネジメント関連情報の発信
・メーリングリストの活用によるタイムリーな会告形式での情報発信
- 2) 日時 通年
- 3) 場所 情報端末上、電子媒体
- 4) 従事者 担当の理事、運営委員 4名
- 5) 受益者 環境マネジメントに関心を持つ多くの人々
- 6) 支出額 収支計算書参照

[3] 環境マネジメントに関する講演会、研修会等の企画・運営事業（第3号に係わる事業）

会員及び一般の方々への環境マネジメントの普及・啓発のため総会開催時と秋2回、春1回の計4回、講演会及びセミナーを開催した。なお、5月に開催予定のセミナーは新型コロナウイルス蔓延により、秋に延期することとした。

(1) 総会併設 特別講演会

1) 内容：プログラム

テーマ1：各研究会での研究の狙いと新しい研究会の構想

JEMAS 理事長・東工大非常勤講師

小山富士雄

テーマ2：JEMAS 実務研究成果報告（SDGsをEMSにどう取り入れて行くか）

JEMAS 理事 AUDIX Registrars 社長

齋藤喜孝

テーマ2：JEMAS EPE研究成果報告（SDGsのパフォーマンス評価基準）

JEMAS 理事 富士通FIP（株）環境経営主席コンサルタント

伊藤泰志

特別講演：「産業廃棄物を資源に変え、自然と美しく生きる」

石坂産業株式会社代表取締役社長

石坂典子氏

- 2) 日時 2019年7月27日(土)
- 3) 場所 東京大学本郷キャンパス 農学部フードサイエンス棟中島董一郎記念ホール
- 4) 従事者 8名
- 5) 参加者 60名（環境マネジメントに関心を持つ人—不特定多数）
- 6) 支出額 収支計算書参照

(2) 2019年 JEMAS 9月 セミナー

1) プログラム：「SDGs」を形のあるものにするためには、何をすれば良いか

講演1 「ISO14001/9001：2015 及び、ISO45001:2018」システム運用の問題点

JEMAS 理事 AUDIX Registrars 社長

齋藤喜孝

講演2 「SDGsと企業活動、中小企業はどう取り組めばよいか」

JEMAS 副理事長

山科謙一

- 2) 日 時 2019年9月28日（土）
- 3) 場 所 東京大学農学部キャンパス 弥生講堂アネックス・講義室
- 4) 従事者 6名
- 5) 参加者 30名（環境経営及び環境マネジメントシステムに関心を持つ人—不特定多数）
- 6) 支出額 収支計算書参照

(3) 2019 年 JEMAS 11月 セミナー

1) プログラム:「プラスチック廃棄物の環境に与える影響を考えてみよう」

講演1 「開会挨拶及びプラスチック使用の現状と課題」

JEMAS 理事長・東工大非常勤講師

小山富士雄

講演2 「廃プラスチック処理の現状」

エム・エム・プラスチック株式会社代表取締役社長

森村 努氏

講演3 「海洋プラスチックごみの問題の現状と対策」

環境省 海洋環境室長

中里 靖氏

2) 日 時 2019年11月30日(土)

3) 場 所 東京大学農学部キャンパス 弥生講堂7棟・講義室

4) 従事者 6名

5) 参加者 30名(環境経営及び環境マネジメントシステムに関心を持つ人—不特定多数)

6) 支出額 収支計算書参照

(4) 2020 年 JEMAS 2月セミナー

1) プログラム:「輸送や移動手段としての自動車が今後の社会や環境に何を与えるだろうか」

講演1 「輸送や移動手段としての自動車の現状と課題」

JEMAS 理事長 東工大非常勤講師

小山富士雄

講演2 「環境問題・交通問題と自動車産業の在り方: Hondaの事例(持続可能なモビリティを目指して)」

環境コンサルタント・元本田技研工業株式会社環境安全企画室長

篠原 道雄氏

講演3 「これからの自動車等の手段・ツール・システムに社会は何を求めているか」

JEMAS 理事、KAZコンサルティング 社長

鈴木 和男

2) 日 時 2019年2月8日(土)

3) 場 所 東京大学農学部キャンパス 弥生講堂7棟・講義室

4) 従事者 6名

5) 参加者 30名(環境経営及び環境マネジメントシステムに関心を持つ人—不特定多数)

6) 支出額 収支計算書参照

(5) 2020 年 JEMAS 5月セミナー

2020年5月23日(土)、食品廃棄物及び食品や飲料容器の廃棄物削減とリサイクルの推進をテーマに講師の依頼、会場の予約等の準備がほぼ完了した時点で、新型コロナウイルス蔓延による緊急事態宣言が出され急遽セミナーの開催を中止することとした。

なお、新型コロナウイルスの状況を見ながら、このテーマでのセミナー開催を2020年秋に計画している。

(6) 毎年協力してきた世田谷工業振興協会主催 環境経営と企業力改善セミナーは先方の人事異動もあり

2019年度は見送りとなった。2020年度について、先方からの依頼次第で協力することで考えている。

[4] その他、本会の目的を達成するために必要な事業

(1) エコプロ展への出展

毎年12月に東京ビッグサイトで開催されているエコプロ展は国内最大の環境活動に関する展示会であり、JEMASも過去に出展した実績を有する。今回、JEMASがコア出展者となり1コマのブースを使用して、当協会会員が中核となっているエコステージ協会の活動事例の紹介も交えて出展した。

以上

貸借対照表

2020年5月31日現在

法人の名称 特定非営利活動法人 日本環境管理監査人協会

(単位;円)

科目	金額		科目	金額	
I 資産の部			II 負債の部		
1 流動資産			1 流動負債		
現金	6,619		前受年会費	0	
預金	71,670		預り金	0	
未収入金	20,000		未払費用	0	
流動資産合計		98,289	流動負債合計		0
			固定負債合計		0
2 固定資産			III 正味財産の部		
機械及び装置	20,798		前期繰越正味財産額	176,768	
			当期正味財産増加額	-57,681	
固定資産合計		20,798	正味財産合計		119,087
資産合計		119,087	負債及び正味財産合計		119,087

以上のとおり報告いたします。

2020年7月10日

特定非営利活動法人 日本環境管理監査人協会

理事長 小山 富士雄 (印)

上記は適正なることを認めます。

会費未収分については担当理事が鋭意回収していることを理事会で確認しました

また業務についても、記録文書、理事および他の会員等に対しての口頭質問、理事会での議論聴取、等々から適切にすすめられてきたことを認めます。

監事 岩田 浩一 (印)

監事 岸川 浩一郎 (印)

法人の名称 特定非営利活動法人 日本環境管理監査人協会

1. 事業活動方針

今年度の活動の柱は、①研究会活動（実務研、E P E研）、②総会併設講演会及び各種講演会である。この他、プロジェクトの発掘と推進及び新規研究会の具体的活動開始を計画している。

また、I S O 1 4 0 0 1 の改訂を機に幅広い視点でMSを捉えると共にSDG sに着目し、今後の企業のあるべき姿を模索すると共に、真に経営改善に貢献できるMSとは何かを追求することとしている。

特に新型コロナウイルスの今後の動向、これに対応しての新しい生活様式や産業の形態の変化が環境問題に如何にインパクトを与えるかに注目していかなければならない。又、ビジネスのあり方ややり方にも大きな変化が生まれており、MSの審査、コミュニケーションの方法についても同様である。これらを取組みした経営が望まれる。

さらに東日本大震災の復興・復旧、さらには最近の各地での自然災害発生に関連して中小企業対象に節電・省エネの具体的な実行計画提案、再生可能エネルギー利用推進、リスク対応のみならず、サプライチェーンを視点に入れたBCP・BCMの構築等の新たな視点での中小企業の環境経営に資する手法を開発し、情報発信をしていくことも重要なテーマである。

また、研究会や定例セミナーの開催に際してはリアルの会合と併せてz o o m等を活用したものを併用して進めることを考えている。加えて、これらの活動の形あるものにするためには他機関との連携も視野に入れることも考慮する。

2. 事業内容

[1] 環境マネジメントに関する調査研究事業（定款第5条第1号に係わる事業以下関連号のみ記す）

(1) 環境監査実務研究事業

2020年度は2015年に改訂されたI S O 1 4 0 0 1 の内容及び関連する規格との関係を検討し、それを踏まえての監査（審査）の留意点、および具体的な課題の解決、SDG sをMSに如何に関連付けて行くかについての研究実施を予定している。併せて、新しい生活様式や企業のありかたが、環境監査の具体的な方法を含めて種々の面で与える影響についても研究を行うこととしている。

1) 内容 監査実務研究会（略称：実務研）

I S O 1 4 0 0 1 改訂版の内容の検討及び監査（審査）の留意点とSDG sとの関連、監査の方法の変化について研究を進める。

2) 日時 定例研究会はほぼ毎月1回、但し WEBの利用も考慮する。

成果発表会（中間発表）の日程は未定

3) 場所 調査研究活動は主として東京中野「AUDIX Registrars 会議室」

成果発表会は主として東京大学の会議室を予定

4) 従事者 延べ90名

5) 受益者 環境マネジメントに携わる多数の人々（不特定多数；会議室の規模で制約）

・成果発表会は40人規模（会場の最大収容人員）、ウェブサイトは不特定多数

6) 支出見込額 2020年度予算書参照

(2) 環境パフォーマンス評価研究事業

I S O 1 4 0 0 1 の2015年改訂版やSGDs、ESG、CSRを視野に入れ、企業経営のガバナンス及び成果報告の柱である統合報告書や環境報告書における環境パフォーマンス評価指標について具体的な研究を進める。環境マネジメントの成果を評価する指標は多様である。組織にとってその活動成果のとりえ方も多様であるが、特にSDG sやESGに関する動向を注視しつつ、SDG sを念頭に置いて実用的な環境パフォーマンス評価指標を提供すべく研究を進める。新しい生活様式や企業経営の視点で生じた指標も研究テーマに加える。

- 1) 内容 環境パフォーマンス評価研究会（略称：E P E 研）
以下の観点を検討しながら、環境パフォーマンス評価手法及び評価指標の研究を進める。
① I S O 1 4 0 0 1 : 2 0 1 5 が求める環境パフォーマンス評価
② 製造業、サービス業を対象とした具体的で使いやすい環境パフォーマンス評価指標
③ S G D s、E S G を配慮した統合指標、新しく着目すべきとされた指標
- 2) 日時 原則として毎月1回、定例研究会開催、但し、WEBの利用も考慮する。
成果発表会（日時は未定）の開催。
- 3) 場所 調査研究活動は主として東京新宿の「K A Z コンサルティング」会議室
成果発表会は主として東京大学の会議室を予定
- 4) 従事者 延べ80人
- 5) 受益者 環境パフォーマンス評価とその監査に関心を持つ多数の人々（主として中小企業を対象）
成果発表会は40人規模（会場の最大収容人員）、ウェブサイトは不特定多数
- 6) 支出見込額 2020年予算書参照

（3）省エネ、サーキュラーエコノミー、L C A 等の新規研究事業
研究目的と内容、研究体制、求める成果等を整理中であり、他機関との共同研究も視野に入れて、早急にスタートさせる。

〔2〕環境マネジメントに関する情報提供事業（第2号に係わる事業）

（1）電子媒体による情報発信事業

新聞情報の発信や会員間の情報交換、外部への広報活動を積極的に推進する。

- 1) 内容 ・主要新聞・雑誌情報の原典所在情報の収集と電子媒体（ウェブサイト等）上での発信
・環境マネジメントに関する調査研究情報のウェブサイト上での発信
・ウェブサイトによる環境問題等の総合的な情報提供
・理事会、研究会等の活動の広報や会員情報、投稿を中心としたJ E M A S ニュースの発信
・参加型、双方向のメーリングリスト活用
- 2) 日時 通年
- 3) 場所 発信場所は首都圏「運営委員、担当理事の自宅」、
電子媒体（当協会ウェブサイト、メーリングリスト）
- 4) 従事者 3人
- 5) 受益者 環境マネジメントに関心を持つ人々（不特定多数）
- 6) 支出見込額 2020年度予算案参照

〔3〕講演会やセミナー等の事業の企画・運営（第3号に係わる事業）

（1）環境マネジメントに関する講演会及び研修会等の企画・運営

① 総会に併設した講演会；

1) プログラム

特別講演： 「持続可能な開発目標（S D G s）に対応するためのE S G投資」
N P O 法人日本サステナブル投資フォーラム（J I S F）会長

荒井 勝 氏

- 2) 日 時：2020年7月18日（土） 13：30～15：00
- 3) 場 所：新型コロナウイルスに対応してz o o mを用いてのWEB開催とする
- 4) 従事者： 8人
- 5) 受益者： 環境経営・環境マネジメントや企業の経営革新に関心を持つ人々（不特定多数）
- 6) 支出見込額： 2020年度予算案参照

② 秋の定例シンポジウムその1

- 1) 内 容: EMSとSDG sについて、SDG sを考慮した環境パフォーマンス指標に検討中
- 2) 日 時: 2020年9月を予定
- 3) 場 所: 東大農学部講義室又はWEB利用
- 4) 従事者: 4人
- 5) 参加者: 30人
- 6) 支出見込額 2020年度予算案参照

③ 秋の定例シンポジウムその2

- 1) 内 容: テーマ検討中(食品廃棄物問題その他)
- 2) 日 時: 2019年11月を予定
- 3) 場 所: 東京 本郷 東京大学農学部講義室又はWEB利用
- 4) 従事者: 4人
- 5) 参加者: 30人
- 6) 支出見込額 2020年度予算案参照

④ 春の定例シンポジウムその1

- 1) 内 容: 研究会報告(詳細未定)
- 2) 日 時: 2021年2月を予定
- 3) 場 所: 東京 本郷 東京大学農学部講義室又はWEB利用
- 4) 従事者: 4人
- 5) 参加者: 30人
- 6) 支出見込額 2020年度予算案参照

⑤ 春の定例シンポジウムその2

- 1) 内 容: 研究会報告(詳細未定)
- 2) 日 時: 2021年5月を予定
- 3) 場 所: 東京 本郷 東京大学農学部講義室又はWEB利用
- 4) 従事者: 4人
- 5) 参加者: 30人
- 6) 支出見込額 2020年度予算案参照

(2) 中小企業支援活動

関東経済産業局、世田谷区・大田区や神奈川県下の各市(川崎、相模原等)の省エネや環境経営推進活動に協力して、各種研究に参画やセミナーへの講師派遣等の協力要請に積極的に対応する。

(3) エコプロ展への出展

昨年に引き続き、エコプロ展に出展し、JEMASの知名度向上と会員が取り組んでいる活動事例を紹介する。出展費用は参加協力団体に分担をお願いする予定である。

以上